



開催報告書(講演録)

- 開催日／2011年11月11日(金) 11:00～16:00
- 会場／札幌駅前通地下歩行空間 北3条交差点広場
(札幌市中央区北3条西4丁目)

主 催：環境省北海道地方環境事務所
共催・後援：経済産業省北海道経済産業局 / 農林水産省北海道農政事務所 /
北海道 / 札幌市 / 三笠市
協 力：えべつ地球温暖化対策地域協議会 / 北海道グリーンファンド /
北海道グリーン購入ネットワーク / (株)ドーコンモビリティデザイン /
環境NGO ezorock / 北海道バイオディーゼル研究会

開催概要	1
3Rコミュニティ・カフェ 進行プログラム	4
主催者挨拶	5
3Rコミュニティ・カフェ トークセッション1	6
再発見「キッチン」にはエコの種がいっぱい！	
えべつ地球温暖化対策地域協議会	
北海道グリーンファンド	岡崎朱実氏
3Rコミュニティ・カフェ トークセッション2	16
Greenerになろう！	
北海道グリーン購入ネットワーク事務局長	大内一弘氏
3Rコミュニティ・カフェ トークセッション3	30
シェアリングという考え方「ポロクル」	
環境NGO ezorock	
閉会挨拶	42

開催概要

平成23年度 **3R推進北海道大会2011**

～「もったいない」がライフスタイルの原点、あなたも考えてみませんか～

- 日時 平成23年11月11日(金) 11:00～16:00
- 主催 環境省北海道地方環境事務所
- 共催・後援 経済産業省北海道経済産業局／農林水産省北海道農政事務所
北海道／札幌市／三笠市
- 協力 えべつ地球温暖化対策地域協議会／北海道グリーンファンド／
北海道グリーン購入ネットワーク／(株)ドーコンモビリティデザイン／
環境NGO ezorock／北海道バイオディーゼル研究会
- 会場 札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場
(札幌市中央区北3条西4丁目)
- 参加者数 総参加者数 延べ1300名／3Rコミュニティ・カフェ 延べ435名



■ 3R推進広報パネル展(プレキャンペーン)

- ①10/10(月)～10/14(金) 10:00～19:00 紀伊國屋書店札幌本店1階インナーガーデン
- ②10/18(火)～10/24(月) 10:00～22:00 札幌エルプラザ2階交流広場
- ③10/30(日) 12:00～15:30 北海道大学学術交流会館
- ④10/31(月)～11/10(木) 札幌第一合同庁舎1階(南側)ロビー
- 10/22(土)10:00～16:00 3R推進北海道大会 in みかさ(イオンスーパーセンター三笠店)



【3Rコミュニティ・カフェ】主催者挨拶 北海道地方環境事務所 吉井所長



【3Rコミュニティ・カフェ】トークセッション1 再発見「キッチン」はエコの種がいっぱい！ 岡崎朱実氏



【3Rコミュニティ・カフェ】環境講演「もったいない善兵衛」 女流講演師 神田紫



【3Rコミュニティ・カフェ】トークセッション2 Greenerになろう！ 北海道グリーン購入ネットワーク大内事務局長



【3Rコミュニティ・カフェ】トークセッション3 シェアリングという考え方「ポロクル」 環境NGO ezorock



【3Rコミュニティ・カフェ】閉会挨拶 北海道地方環境事務所 伊藤統括企画官 司会進行:橋本登代子



【3Rコミュニティ・カフェ】ドリンク・給水コーナー

3Rコミュニティ・カフェ 進行プログラム

Time	プログラム	内 容
	環境DVD上映	
11:00	開 会	司会者 橋本登代子
11:01	主催者挨拶	環境省北海道地方環境事務所 所長 吉井 雅彦
11:10	トークセッション1	再発見「キッチン」にはエコの種がいっぱい！ えべつ地球温暖化対策地域協議会 北海道グリーンファンド 岡崎 朱実氏
12:10	環境DVD上映	
12:30	環境講談&環境トーク	環境講談「もったいない善兵衛」 女流講談師 神田 紫氏
13:30	環境DVD上映	
13:45	トークセッション2	Greenerになろう！ 北海道グリーン購入ネットワーク 事務局長 大内 一弘氏
14:45	環境DVD上映	
15:00	トークセッション3	シェアリングという考え方「ポロクル」 環境NGO ezorock
16:00	閉会挨拶	環境省北海道地方環境事務所 統括環境保全企画官 伊藤 孝男



神田 紫 かねだ むらさき

女流講談師
落語芸術協会 会員
日本講談協会 元会長

プロフィール

文学座から小沢昭一氏主宰「劇団芸能座」を経て、講談の二代目神田山陽師の門をたたく。1989年真打ち昇進、パープルエクスタシーシリーズと銘うち、「血文字お定」や「紫版・滝の白糸」等を連続上演、女の激しい生き様、ほとぼしる情念の世界を見事に表現し、講談界のみならずマスコミに紫ブームを巻き起こす。TV、ラジオ他での活動も盛んである。ノーベル平和賞を受賞したケニアの副環境大臣ワンガリ・マータイさんの提唱する、地球の資源を大切にという、「もったいない運動」に賛同。環境講談『もったいない善兵衛』を創作し、「人・物・自然を大切にし、感謝する心」を伝えている。平成17年千葉県松戸市の「もったいない大使」となる。

『もったいない善兵衛』

舞台は江戸の宿場町。小間物屋にでっち奉公している、貧しい農家出身の小僧さんが主人公。なにかにつけて「もったいない」と言うが、その堅実さを主人に買われて店を任せられるという話。「物を大切にするのはもちろんのこと、周りの人を大切に、感謝する気持ちを、多くの人に伝えていきたい。」自身の子ども時代、末っ子で衣服は2人の姉のお下がりがばかり。ご飯を残すと母にきつくしかられた。「もったいない」の気持ちは自然に身についた時代だった。昔からの人々の暮らしには、循環型社会の考え方が根付いていました。残さず食べる「食」の大切さも織り交ぜたトークと「講談」のステージで楽しみながら、ライフスタイルを提案しました。

主催者挨拶

皆さんおはようございます。只今ご紹介頂きました環境省北海道地方環境事務所長の吉井と申します。本日は何かとお忙しい中、この場にお集まり頂き、あるいはお立ち寄り頂きまして、大変ありがとうございます。主催者を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

さて、最近、「持続可能な社会の構築」という言葉を良く耳にいたします。環境の問題で使われることが多いわけですが、環境の問題だけではなく、社会の様々な面においてこの言葉が使われています。この「持続可能な社会を構築する」というのは、現代社会の重要な課題ではないかと思えます。そして、本日この行事のテーマとなっております「3R」リデュース・リユース・リサイクル、この3つのRの取り組みは、まさに「持続可能な社会を構築する」ための重要な柱である「循環型社会」をつくる重要なアプローチです。このようなことから、私も環境省北海道地方環境事務所といたしましては、平成18年から、この「3R推進北海道大会」を毎年開催してきております。こういう場を設けることによりまして、3Rの取り組みとすることを少しでも考えて頂き、あるいは知って頂き、行動につなげる。そして、ライフスタイルを見直す、ということにつなげて頂きたいと考えています。



環境省北海道地方環境事務所
所長 吉井 雅彦

ところで、全国で1年間に家庭あるいは事務所・事業所からでてくるゴミの量というのは、約5000万トンというふうに言われております。その中で、約3割、1600万トンあるいは1100万トンと言われております量が、家庭の台所からでてくる厨芥(ちゅうかい)という台所ゴミだそうです。1100万トン、1600万トンといってもピンとこない数字ではありますが、街の中で走っているゴミ収集車が2t車、実際には1tか1.5tくらいしか積めないということですので、これが、1年間に1000万台走らないとその家庭のゴミが処理できない、と言っても、なかなかわかりにくいのですが、べらぼうな量であることは間違いないということです。

それから、話は変わりますが、北海道と言いますと、全国の方々は、非常に農林水産業が盛んで、とても食べ物がおいしいところというイメージを持っていると思います。そういった意味から今年のこの3R推進北海道大会を開催するにあたり、「食」というものをテーマに台所をはじめとした家庭の「もったいない」というものを考えて、その中から、家庭ゴミの減量や、その取り組みを考えてみたいということで開催したところでございます。

このあと、女流講談師の神田紫さんの環境講談「もったいない善兵衛」も開催されます。また、3Rについての様々な先進的な取り組みをされている団体の方々から、トークセッションでのお話もございます。あるいはご覧のように展示もしておりますので、時間の許す限り皆様にご参加頂き、少しでも家庭ごみの減量あるいは3Rの推進、そして最終的には、「循環型社会」を作っていくということについてご協力をいただけるようお願い申し上げます。私のご挨拶といたします。本日はどうぞ宜しくお願いいたします。

『再発見「キッチン」にはエコの種がいっぱい！』

えべつ地球温暖化対策地域協議会
北海道グリーンファンド

岡崎朱実氏

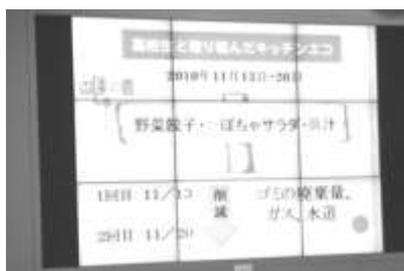


皆さんおはようございます。岡崎です。今日は、「キッチンにはエコの種がいっぱい」ということで、ご紹介するのですが、私がいっぱい知っている、じゃなくて、皆さんの知恵を集めて沢山にしていきたいなって、そういう風なことを考えています。

まず、どうして台所なのだろうかというところから話を進めていきたいと思います。台所にあるものを考えてみると、ガスだったり、炊飯器だったり、電気ポット、それから冷蔵庫、照明、買物をしてくるものとかゴミになったあととか、それから、お買物をする時に車に乗ったり、エネルギーを沢山使います。という風にキッチンに関係したエネルギーって、実は、沢山あるのだなということに、ちょっと前から気づきはじめました。皆さんは、もっと早くからご存知だったと思うのですが、ちょっと前から、そうなのだと思ってきたのですね。結構沢山のエネルギーを使っているっていうことは、結構省エネするヒントもいっぱいあるじゃないかということがわかってきたのですね。そこで、このあと去年の取り組みをご紹介したいと思います。私達は、江別高校の生徒さん達と一緒に、こういう取り組みをやりました。

(映像紹介) これは、私のプレゼン資料ではなくて、江別高校の生徒さんが作ったプレゼン資料なのです。非常に上手なので、

ちょっと借りてきました。本当だったらここで、高校生がお話した方が、もっと良かったの



ですが、ずいぶん年上のおばさんが代わりに紹介していますので、その分は差し引いて考えてください。この発表を作ったのは、今はもう卒業した3年生の3名です。江別高校には生活デザイン科というのがあって、そこで家庭科のいろんなことを勉強しています。これも全部生徒達で作ったのですが、こんな感じで一緒にお料理をして、いろんなエコを考えるという取り組みをしました。ちょうど1年前です。



11月13日と20日に2回調理実習をしました。作ったもののひとつは、野菜餃子。なぜ野菜餃子を選んだのかって言うと、高校生がおうちの中で結構残るのはなんだろうとお友達にアンケートを取って見たら白菜が結構残るよと、じゃあ、白菜を沢山使って餃子を作ってみようということで餃子が選ばれました。それから、かぼちゃサラダと豚汁。豚汁は、具沢山の沢山の野菜を使うので、いろんな工夫ができるかもしれないということで選びました。

1回目は、いつもおうちでやるような形で何も言わずにいつもの通りやってみてください。ただゴミがどれくらい出たか、それからガスをどれくらい使ったか、水道は個別で量れなかったなので、かわりに洗剤をどれくらい使ったか、その3つを量ってくださいということになりました。1年生から3年生までの混成チームで4人ずつ3班に分かれて実施しました。

再発見「キッチン」にはエコの種がいっぱい！

先ほど言ったようにガスメーターとか電気とか生ゴミとかそういうものを量りながらやったわけですが、一つ一つの台にガスメーターを付けました。どれだけ使ったか一つの台でわかるようにしました。それから、炊飯器でご飯を炊いたのですが、「ワットチェッカー」という、今どれくらい電気を使っているかっていうのが個別でわかるものを使いました。この「ワットチェッカー」のもうちょっと簡単バージョンを札幌市で12月から貸し出しますので、良かったら、あそこにチラシがあるので、是非ご参加してください。ということで、1回目こんな感じでやったんですね。

このメニューに初めて取り組む生徒達もいますし、それからサッサッサッとできる人達もいるなど、いろいろでした。やったことがない生徒は、まずは他のお友達がどんな風に行っているかじっと見ながら あ！自分にもできそうだなあと思ったら、おもむろに始めるとか。いろいろなことをやりながら、それから写真も撮りながら、どんな順番でやったとか、全部記録してやりました。

先ほど言ったように、お水は個別に台にメーターが付けられなかったので、お水の量を量る実験をやりました。まずは、鉛筆の太さぐらいで30秒だと、どれくらい水が流れているかなとみんなで予想してもらいました。それから、親指ぐらいの太さだとどれくらい出てるかなあ、と予想してもらいました。これは予想です。鉛筆ぐらいだと1.20かなあ、親指ぐらいだとその2倍の2.50くらい出てるかな？と。それで、実際に量ってみました。鉛筆ぐらいで30秒だと、1.50位なのですが、親指ぐらいだと、5.80も出ていた、ということに彼女達は非常にびっくりしました。驚きの結果、そして、こういうプレゼンを作ったわけですね。

13:00～ 振り返り・次週に向けて		
1班	2班	3班
水道 0.2890m ³	0.2924m ³	0.3675m ³
食料 14g	20g	17g
ゴミ 470g	471g	352g
野菜の皮で味噌を包く。	作るものに選んだ大きさを調べる。	余熱を使い、野菜を小さく切った。
一回一回スポンジを洗う。	洗った湯は水に流して、残り洗い物を洗う。	洗った湯の水を流さず、残り洗い物を洗う。
食べ残しをしない。	ゴボウの皮まで食べ残しを減らす。	食べられるところは全部使う。

それで、いろいろなことを、ガスの量とか、他のことも比べてみて、生ゴミの量とかも比べてみて、じゃあ、次の回はどんなことに気をつけたらいいかなあていうふうに考えたのがこの内容になっています。ゆで時間を短くしようと回か、1回1回洗わなくても大丈夫かなあとか。

それから、食べ残しをしない。今までは、沢山作っちゃったので食べ残しをしていたのですが、がんばって食べるとか。いろいろな工夫をやったのですね。

翌週、ちょうど1週間後の20日に、ちょっと考えたらどんな風になるかなあ、ということで、まず最初に、作戦会議をみんなでやりました。それで、さあ始めようってことで始めましたが、全然、暗い感じはなくて楽しそうにやっているっていうのがわかると思います。チームワーク良く、いろいろ一生懸命やりました。そして、結果がこんな風になりました。

白菜を小さく切ったりとか 卵のゆで時間を短くしたりとか、それから、お鍋もう温かくなっているので余熱でも大丈夫だねとか、いろいろな取組みをしたのですね。汚れを落としてから溜め水でうまく洗っていけば良いねとか、油ものを最後に洗うといいねとか、食べられるところは全部使うとか、いろいろなことを考えてやったわけです。

そうしたら・・・、1回目と2回目の差がグラフになっているので、おわかりいただけると思うのですが、それぞれの班で全部すごく減ったのですね。ちょっと意識したらこれだけ減ったっていうことです。



3Rコミュニティ・カフェ トークセッション1

ガスの使用量を減らすには、私達がこうしなさいじゃなくて、みんなが考えてやったことです。材料を小さめに切るとか、火が通ったらすぐに火を止めるとか、余熱を上手に使うとか、お鍋のふたを上手に使うとか、硬い野菜は薄く切るとか。これは、たぶん、もう経験がある皆さんは、普通にやっていることだと思うのですが、高校生、今の子供達って、調理実習の時間がすごく少なくなっているのですね。場合によっては、中学校で、全然調理実習をしないまま、高校にあがってくる生徒達もいるのですね。

なので、なかなかそういう事を学ぶ機会がなくて、これもみんな考えてたら、こういう風なことができたということです。

それから、洗剤の使用量。洗剤も結構いっぱい使っていたのだけれども、随分減っています。3班さんなんかは、32g使っていたのが10g、3分の1に減った。こんなに使わなくてもきれいになるのだからってことに気がついた、ということなのです。それから、使用量を減らすためにいろいろな工夫をしました。みんなが、おお！って、言ったのは、盛り付けをワンプレートにしたこと。ごはんもそのままごそっと置くのではなくて、まずお茶碗に入れてヒョイってひっくり返したら、かわいい円型になりますよね、お山みたいな形。そういうふうにしてみたりとか、いろいろな工夫をしたわけです。生ゴミの量も、上手に皮をむいたり、最後にギュッと絞ったりして、これだけ減らすことが出来ています。

これもいろいろな工夫をしたってことなのですが、3班全体で、ひと班ひと班は減ったけれど、全部あわせたらどれくらい減るだろうかっていうと、ガスは随分減ったということがわ

かると思います。洗剤もすごいですよ、3分の1近くに減っています。これだけ減りました。それから生ゴミも随分気をつけたら、減ったっていうことがわかります。

いろいろな取組み、ネギのみじん切りに取組んだ人がいたりだとか、それから仲良く餃子をつめている人がいたりとか、餃子を焼いている子がいたりとか、これはその前の日にやったことなのですが、こんな感じで12人が楽しくエコを進んでやるのが出来たっていうことです。



今年はさっきお話があったように、地産地消と保温調理をテーマにプロジェクトを進行中で、12月末にHBCさんでテレビ放送をしてくださるということで、今進んでいます。今回やろうと思っているのは保温調理です。もうやっていらっしゃる方もいると思うのですが、もうちょっとだけお話をしていきたいなあと思います。

こういうことをやって、私が気づいたことは、次のようなことです。ただ全体に漠然とエコをしようという、何していいかなかなかわからないのですが、今回の取組みのように、小分けにして量る、つまり、見えるようにしていったのです。そうすると、ああ、ここはこうすれば良いとか、そういうことが見えてきた。それで、小分けにして視覚化すると改善点が見えるのは、これはたぶん授業をやってらっしゃる方は当然のことだと思うのですが、私達は、なかなかそういうふうによく分けて考えることができないので、今回やってみて、ああ、そうだったなあ、という風に思いました。

もうちょっとお話をすると、ガスはメーターを特別につけてもらったのですが、電気はもっと簡単に、1個1個の家電に、先ほど言った札幌市が貸出している「ワットモニター」というの



再発見「キッチン」にはエコの種がいっぱい！

を使うと、今どのくらい電気を使っているのか、設定を例えばテレビを明るくしているのとそうではないのでは半分くらいに消費電力が下がるとか、そういう様なことが見えてくるのですね。こういう風に「見える化」するのが、すごく良いじゃないかなあって思っています。



こういう風に電気の話をする時にちょっとだけ、もう皆さん良くご存知だと思んですが、ちょっとだけ電気の基本の基ってところのお話しておきたいと思えます。「アンペア」皆さんのうちでは、北電さんと契約しているアンペア数って覚えてますか？じゃ、何アンペアかちょっとお聞きしたいと思います。20アンペアの方？はい、3分の1くらいですね。30アンペアの方？はい。40アンペア？50アンペア？はい、60アンペア？オール電化などでもっと違うぞっていう方？はい。

ということで、そのアンペア数っていうのはどういうことかっていうと、ホースだと考えてください。20アンペアだとあまりいっぺんに沢山流れない、30アンペアだともうちょっと流れる、40アンペアだともうちょっと流れるって、いうことになります。それから、ボルト。皆さんのうちでは、たぶん100ボルトだと思えます。IHのクッキングヒーター使ってる方は、200ボルトになっていると思えます。

それから、ワット、キロワットっていうのがあります。これは、電気がする仕事の大きさです。ですから家電製品の裏を見ると、定格消費電力何ワットって書いてあるのですね。それは一番いっぱい使う時にこれだけの電気を使っているよっていうこと。ずっとそれだけ使うものもあれば、瞬時に、一瞬それだけ使って、あとは少なめで移動するのもあります。そういうの

がさっき言った「ワットモニター」でわかるわけですね。

それからもう一つが、ワット時、キロワット時。これが皆さん、北電さんから電気のお知らせに書いてあるわけです。250kwhとか、130kwhとか、300kwhとかいろいろ書いてあるわけです。皆さん結構、金額は覚えているけれども、そっちの何kwhっていうのは、うっかり、あんまり良く見ていないことが多いようです。金額は、ちょっといろいろよく変わるんですよ。で、何キロワット時っていうのがわかるとちょっと違ってくるのですね。大体、(標準家庭で)平均すると1日10kwhくらい使っていると言われてるので、(1か月で)300kwhくらい。北海道の標準家庭は、260kwhくらいって言われたりするのですけれども、1日10kwhよりちょっと少ないくらい、というふうに考えてみてください。そんな感じになります。

さっき言った20アンペアのお宅は、いっぺんに使えるのは2000ワットです。ですから、電子レンジはいっぺんに500～600ワットはいきますよね。それからホットプレートだと1000ワット以上いきますよね。で、ドライヤーも結構1300ワットとかいきますよね。ドライヤーと電子レンジを一緒に使うとブレーカーが落ちる。20Aだとね。落ちるのですけども、別々に使えば大丈夫なのです。そういうふうなことも考えてやっていかれるのが良いかなあと思えます。

電気の基本の基って言っていますけれども、ポイントは3つしかありません。

どんな使い方をするかという設定です。自分のおうちの家電を上手に使うにはどう使ったら良いか。それから壊れた時にどんなものを選ぶか、省エネ性能が高いものを選ぶということです。それから3つめは、使う時間を短くする。これだけしかありません。というようなことをいろいろ調べていかれたら良いかなあと思っています。

さっき言ったのは、この「節電モニター」、私は札幌市の回し者でもなんでもなく、江別市民なのですが、こういうのもあるので、ぜひ取り組んでみられたら良いかなあと思っています。

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション1

それでは、これからですけれども、さっき高校生がグループでいろいろ考えたって言いましたよね。一人で考えるだけじゃなくて、みんなでどんなことしたら良いかなって考えたり、あの班はどうしているのかなって聞いたりすることが、すごく効果が大きかったということなのです。これから、さっきあのワークショップと違って言っていて、ドキッとした人がいたと思うのですが、みなさんの取組みをここで共有していただけたらなあと思います。それで、一人のテーブルのところは、どこか他のテーブルに移って、複数で3人くらいずつになるのかなあと思います。今から始めていききたいと思います。

それで、こういうワークショップをやる時っていうのは、ふつうポストイットを使うのですが、ちょっとかわいくないかなあと思って、昨日夜なべをして、こういうメモ用紙を作りました。うしろに両面テープを貼っているの、後で貼れるようになっています。本当は調理器具の絵が欲しかったのですが、調理器具の絵は無かったので、野菜の絵とか果物の絵が描いてあります。ここに皆さんがおうちでやってらっしゃるお台所でのエコをちょっとね、ペンもあると思うので書いてみてください。それで、書いてどんなことをしているのよ、っていうことをテーブルの方たちとお話していただけたらなあと思います。

若者は少ないので、ezorockさんは、ちょっと年齢の高いところへ分かれて入っていただけたらと、年齢が高いところって言って申し訳ないですが、人数の少ないテーブルに入って一緒にちょっと考えてみてください。

はい、キッチンでのエコは、どんなことをしているかっていうのを、1個ずつで良いので、まだ沢山紙はあるので、こんなことをやっています



よ、というのを気軽に書いてみてください。

こんなことをやっているよ、っていうのがだいたい揃ったら、グループ、テーブルの中でお話してみてくださいね。それで、もうちょっと詳しく聞きたいなあ、とかっていうことは、そのテーブルの方にお聞きください。

すみません、野菜は切り抜くのがなかなか大変なので、最後の方は、この四角いちょっと手抜きバージョンになっているので、こっちも同じように使ってください。

はい、どうもありがとうございます。いろいろな意見が出ていて、それからいろいろな知恵を紹介してくださった方もいたので、少し、どんなことがあったかっていうのをそれぞれご紹介いただけたらなあと思いますので、ひとりずつかな 私はこんなこと思ったとか、皆さんのお話からこんなこと印象に残ったとか、っていうのをお話いただけたらなあと思います。あちらの男性ばかりのチームもいろいろ書いてあったので、あちらからお聞きしていきたいと思っています。はい、どうですか。



男性1: うちではですね、以前は朝晩と2回ごはんを炊いていたのを晩1回にして、朝はレンジで温めて食べるようにしています。あと、食器はですね、流水も最後に仕上げはするのですが、その一つ前は、溜め水ですすぐようにしています。

岡崎: すばらしいご家庭ですね。はい、どうぞ。

男性2: うち、ガスですね。鍋の大きさにあった、あまり大きくしない、ガス(の炎)が、はみ出さないようにしていま

再発見「キッチン」にはエコの種がいっぱい！

す。あと、洗剤をあまり使わないことと水の出っぱなしはしてないということです。

岡崎 : すばらしいですね、拍手をしましょう。

男性3: 私のうちではですね、家族にみあった量の鍋を使用することに注意しています。それと洗うときには、まとめて洗う。当然熱い湯ではなくぬるま湯で洗う、そんなところくらいしか注意してないですね。

岡崎 : いやいや充分ですよ、すばらしいですよ。はい、じゃあ皆さん拍手をお願いします。

じゃあ、ここのチームさん、いろいろ話題が出ていましたが、どうぞ。

女性1: はい、洗い物の関係、水の関係ですけれども、食器の汚れは、スクレーパーで汚れを落としてから洗います。(へらみたいなものですね。)

洗い物はそちらの方もおっしゃったのですが、溜め水洗いをして水の使用量を少なくしています。

あとはガス、うちはガスですけれども、これからの季節は余熱を活用した保温調理を実践しています。ごはんもガスで炊くようにすると短時間で非常においしくできます。たまには保温調理でごはんも炊いたりしています。

あと余った野菜なんかは酢づけなどにして活用しております。

岡崎 : 酢づけにするということは良いですね、ありがとうございます。じゃあお隣の方、どうぞ。

女性2: 野菜は細かく切って早煮ができるように心がけています。それと調理時間を半分に抑えるために、蒸し煮を心がけています。それから洗剤、市販されているものを重曹に変えると、水道の量が半分になるのではと思っています。あと、記録はしていませんが炊飯器の変わりに圧力鍋を使って電気の使用量を減らしています。



岡崎 : はい、ありがとうございます。さっき、拍手忘れしました。失礼しました。拍手をお願いします。

女性3: これはもう大体同じなのですが、食器はまとめて洗っています。使うものが重曹とそれからクエン酸です。結構これで油とか、それからあのしつこい汚れが取れて水もあまり使わないで済んでいます。

それから残飯は、ダンボールで堆肥作りを(残飯の堆肥化ですね)していますので、残飯の廃棄量はほとんどありません。

それから調理時は、フライパンを使用して、底面が大きいと熱の伝道が早いから(火に当たる部分が多いってことですね)なるべくフライパンを使うようにしています。

あと乾燥、最近はしょうがとかごぼうをさきがけだとか小さく切って乾燥して、それを炒めごはんとか煮物の時にちょっと足して使っています。

(味も良くなって良いですね)

岡崎 : はい、じゃあ皆さん拍手をお願いします。

はい、次はこちら(のテーブル)お願いします。それからこの素敵なバックの紹介も是非してください。

女性4: ではまず食の方から、残りごはんをいつもはラップに包んでいます。1食ずつ分けてすることが多いのですが、多くなった時には、ゴルフボールくらいの大きさに小さなおにぎりにし

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション1



て、それをフライパンで表面を焼いてパリパリにして冷まして冷凍しておくとお鍋の具になるんです。そのまま入れちゃうので、(きりたんぽみたいな雰囲気ですね) そう、ちっちゃなきりたんぽ、肉団子のお鍋と一緒に入れたら肉団子も同じような大きさだし、1回も焼いているので、ばらけないのでとても美味しいです。

(今度やってみたいと思います。)

それと、チラシとかフリーペーパーのかわいい絵柄の写真とかでバッグを作っています。(今、作ってこれたのがこれなんですけれども、重さがあって、皆さんちょっと持って頂いたら結構ビックリすると思うんですけども) おしゃべりBOXさんというフリーペーパーで作っています。1冊分だけこれが出来ました。



(破れちゃわないですか) 破れないです。使っているのは糊だけです。はさみも使っていません。はさみ使ったかな・・・

(結構、ずっしり重いんですけどもね、丈夫みたいなんで)

1kg弱くらいあると思います。

(はい、ちょっと回してください)

岡崎 : はい、どうもありがとうございました。皆さん拍手をお願いします。はい、(続いて)じゃどうぞ。

女性5: 洗い物ですけど、アクリルスポンジ、アクリルの毛糸のたわしを使って洗い物をしているのと、生ゴミの排水のところに生ゴミネットをつけて生ゴミを減らすようにしています。

岡崎 : はい、ありがとうございます。皆さん拍手をお願いします。

女性6: 私はですね、ちょっと台所じゃないのですけれども、アンペア数を下げまして15Aにしています。

(15Aになりましたか 何人家族ですか?) 二人ですね。

(二人で15AでOKなのですね)

あと保温調理をしてガス消費量を少なくしているのと食器もまとめ洗いをして基本料金で済んでいますね。

岡崎 : はい、ガスが基本料金ですか、すごいですね。拍手、みなさんお願いします。こっちの班行きます。はい、お願いします。はい、奥様にどのようなことをするように頼まれていらっしゃるかっていうところから、どうぞ。

男性4: 私はいつも寝るのが一番遅いのです。それで、ポットの電気とテレビ、それとボイラーの電気とか、全て寝る時は消すようにと命じられているのですが、今の話、皆さんの話を聞くと、女房の方がもっともっとエコできるんじゃないかなという気がしてきましたので、帰ったらしっかり教えてやろうと思います。

岡崎 : はい、よろしくお願いします。皆さん拍手をお願いします。

女性7: 皆さんからみんな教えて頂いて、言われたことですけど、家を空ける時はこまめに電気とか、そういうものは一切消して出かけます。そして野菜、特にキャベツなんかは芯まで薄く切って最後まで使うようにしています。以上です。

岡崎 : はい、ありがとうございます。皆さん拍手をお願いします。

再発見「キッチン」にはエコの種がいっぱい！

女性8： 私の場合は、台所の煮炊きは、ほとんど圧力鍋を使用してガスの使用と電気の使用を抑えています。スパゲティでもおうどんでも全部出来ますから、結構、重宝しています。お洗濯は、ほとんどの皆さんやってらっしゃると思いますけど、お風呂の残り湯。それから玄関の脇の掃除だとか、床のお掃除も全部ほとんど風呂の残り湯でやっています。

台所から出る野菜くずは、全部絞って土に埋めて来年お野菜作るときの肥料にしています。(ちゃんと循環しているのですね)循環していますね。ごはんは、夜ゆっくり食べたいので、夜1回ちょっと多めに炊いていますので、2人ですから4人分くらい炊いて、次の朝は、温めて食べるというようなことをしています。

もう一ついいですか、(どうぞどうぞ)エコと関係ないかもしれないのですが、このお洋服、実はこれ何年か前に買ったコート、コートっていっても半コートなのです。それで、とっても気に入った色でしたので、これ裏返しして作り直しました、自分で。ですから、これが裏なのです。元の表の生地っていうのはこんなに焼けちゃっているのですけれど、これもエコ？(すばらしいですよ)今、はっと気がついたんですけれど、これもエコになるかしら～と思ったのです。

(そうですね)ですからこんなところ、接いだりとかしています。裏もそのまま使いました。今、気がつきました。

岡崎： ありがとうございます。皆様拍手をお願いいたします。

はい、じゃあこちらの方どうぞ。



男性5： 私が書いたのは食とかはそんなに関係ないと思うのですが、台所周りというと、例えば電子レンジのコンセントを使わなかったら抜くとかそういったことを心がけています。それとあとは、今日みたいなどころへ来るときは、タンブラーを持ち歩いたりして、極力ペットボトルのゴミとかを増やさないように心がけています。

岡崎： ありがとうございます。皆さん拍手をお願いします。

男性6： 私は取り立ててこれだっていうことは、ほとんどやっていません。せいぜい、顔を洗ったり、歯を磨いたり、それから洗髪の際に水の出しっぱなしだけは、なるべく注意しながらやっています。それと、狭い家の中ですから余計なことには手は出さないと、出すこと自体がもう邪魔になって、尚かつ無駄になるという信念でやっていますので、一切そういうところには立ちもしませんし触りもしません。相手に任せています。出されたものは黙って食べると、そういうような生活をしております。以上です。

岡崎： 信頼感溢れるご夫妻だということですね。次の方、はい、お願いします。

男性7： 私は残さず食べるって書いたのですが、要は沢山作りすぎることがあって、そういうことを少なくしようというつもりで書いたのです。やっぱり私も孫がいますので、食べ残しをするなという注意をします。最終的にそれがゴミになったりするのはいらないなと。

あと、冷蔵庫の中なんかをよく見ると沢山のものが入っていて、結構、賞味期限ですか、そういう書いてあるのを見ると、もう過ぎているものが、結構見受けられるな、と。これは我が家の例ですけれども、結果的にそういうものが廃棄になる、ということが非常にまずい、まあ食文化のことも含めてですね。そういうものを極力減らし

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション1



ていきたいなあ、というふうに常日頃思っておりますが、現実はなかなか伴っていないと思っています。

岡崎 : はい、ありがとうございました。皆さん、拍手をお願いします。
では、こちらの方。はい、若者どうぞ。

女性9: 私は、ほとんど家で料理はしませんが、洗い物は水で流すっていうよりも、手で擦って汚れたところは落とすようにしているのと、あと、果物が大好きなのでよく果物をむいて食べるのですが、皮の部分をなるべく薄くむくように、あと種のところも種ギリギリぐらいまでむくようにして、無駄を出さないようにしています。
(もう一個これがすごくいいと私は思うのですが、どうぞ)

冷蔵庫なのですけど、冷蔵庫のどこに何が入っていて、自分が飲み物飲みたいとか思ったらあの辺に入っていたなあっていうのをイメージしながら、サッと開けてサッと取ってサッと閉めるっていうのをやっています。
(この標語がすばらしいのですが、ぜひ読んでください)

「冷蔵庫は、秒で開閉、早さ命。」と書きました。

岡崎 : 「秒で開閉」っていうとこですね。
はい、次の方、お願いします。

男性8: 言われてしまいましたけど、食べ残しはしないってことを書きました。食べる専門で台所のエコっていてもわかりません。それでいつも本当に食べ残しをしないってことを考え

ていて、バイキングなんかに行っても自分が食べられる量だけ取って残さないようにしています。これ一番大事だと思います。あと、食材もね、自分が使う分だけ予想して買ってきます。
(時には、)安いから買って捨てているのですけれども、誰も作ってくれないのでそんなところですよ。

岡崎 : はい、ありがとうございました。拍手をお願いします。

次は、こちらの方からお願いします。

男性9: 自分の場合は、使用していない電化製品のコンセントを必ず抜いておくっていうことが一番多いですね。
(待機電力がかかるのでね)
そうですね、はい。

あと、調理もするのですけれども、野菜の硬いものを電子レンジで10秒～15秒くらい温めると下茹で状態になるので、それを使ってガスで調理時間を短くしたりとか、ガスの使用量を少なくしたりだとかっていうことをやっています。

岡崎 : はい、ありがとうございます。皆さん拍手をお願いします。

女性10: 炒め物をする時、ブロッコリーの芯の部分ですとか、キャベツの硬い部分ですとかを特に使ったりもするのですけれども、そのまま永遠と炒めるとずっとガスを使用する事になるので、一旦ふたをして少し蒸すというか、野菜の水分でしんなりして焦げたりはしないので、一旦蒸してから炒めるようにしています。

岡崎 : はい、ありがとうございます。それでは、最後お願いします。

男性10: 幼稚園の娘がちょっと口を拭いたぐらいで、ティッシュをポイポイ、ポイポイ使うので、ゴミ箱から拾って使うとかですね、やっていますね。あとは、僕が家に帰ったら電気をかたっぱし

再発見「キッチン」にはエコの種がいっぱい！

から消して回るなんてこともやっています。それからもう一つは、なるべく続けて風呂に入るっていうのはやっていますね。

(あと廃食油リサイクル・・・)

そうですね、油のリサイクルもスーパーに持っていくっていうのもやっていますし、テレビとかゲームもそうなのですけれども、スイッチ型のコンセントが今売られてるので、なるべく元の電源から切っちゃうっていうことはやっていますね。

岡崎： どうもありがとうございました。皆さん拍手をお願い致します。

最初は、皆さんが参加して下さるか、すごく不安だったのですが、いろいろな意見が出てきて、すごくありがたかったなあっていうふうに思います。今日、皆さんからお話を聞いたものは、ここにあとで貼って、他の方たちにも見て頂いてもっとこのエコの輪が広がっていったらいいなあ、というふうに思っています。ありがとうございました。

さっき言いましたけれども、保温調理のお話、皆さんもやってらっしゃるっていうことで、ここで本当は保温調理できたら良かったのですが、なかなか設備が大変なので、あ

とであちらのコーナーで、お茶のポットにティーコージーをかぶせるだけで、どれぐらい違うかっていう実験をやったりします。お茶は、サバティーっていう、マレーシアのボルネオの動物達を助けようという、そういうフェアトレードのお茶を飲んでいただくようにしています。

皆さんからいろいろなご意見を聞いてありがたかったなあっていうふうに思っているのですが、このあとアンケートを皆さんに書いていただきたいなって思いますので、ぜひ今日、どんな感想を持たれたかというようなことをアンケートでお知らせいただけたらなあっていうふうに思います。

今日、皆さんにお聞きしたことは、また高校生にも伝えて、みんなのお話をこうやって伝えたら皆さんからこんなリアクション受けた、反響がありましたよというようなことを伝えていきたいっていうふうに思います。高校生は、皆さんの前でこんなことをやりましたって発表することで、またいろいろなフィードバックをもらって、次また頑張っていこうっていう感じになっていくので、こういうやりとりはとっても大事だっていうふうに思っています。ちょっと早いですけれども、大体用意してきたものはこれで終わりましたので、私のお話は、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。



『Greenerになろう！』

北海道グリーン購入ネットワーク

事務局長 大内一弘氏

(進行:橋本登代子)



(進行)橋本登代子:

では、お待たせをいたしました。「3Rコミュニティ・カフェ」本日2回目のトークセッションを始めてまいります。今回は、ちょっと趣向を変えましてステージ上で対談風にお届けをします。では、早速お客様をご紹介します。北海道グリーン購入ネットワーク事務局長の大内一弘さんです。大内さん、今日はよろしくお願ひいたします。

このあとは、皆さまにも意見を聞きながらお付き合いいただければと思います。

商品を選ぶ際に、あなたは、どんなことを気にして選びますか。必要性を考えます。それから地球環境に配慮された商品を選ぶかが、「グリーン購入」らしいのですが、もっとくわしく伺いましょう。今日のテーマは、「Greenerになろう！」ということです。大内さん、「グリーン購入」から優しく教えていただきたいのですが。

北海道グリーン購入ネットワーク

事務局長 大内一弘:

画面にも映しておりますが、まず「Greener」って、いったいなんでしょう。

橋本: 「Greener」、緑の人ですね。

大内: 我々は、緑=環境というイメージから「Greener」という言葉を使うのですが、よりGreenな人になろう。より環境に興味を持ち環境問題に取り組む人を増やしていこうという意味合いでそう

いう人達を「Greener」と呼ぶようにしております。我々としては、この会場に来ていただいている方は、もうすでに「Greener」です。

「Greener」というのは、グリーン購入を広げるだけではなく、いろいろな環境問題、今日午前中からいろいろな話がありました。それぞれについて興味を持ち、実際に参加したり、自分で取り組んでみたり、何かひとつでも環境に配慮した行動をとろう。こういった人達をすべて「Greener」と呼んで、欧米では、すでに「Greener」という呼び方は、定着しつつあります。日本では、まだまだそういう呼び方をされていませんが、ぜひ北海道を発信基地としてもっていきたいと思ひまして、我々は「Greener」と、なかなか理解してもらえないのですが、耳に入れてもらってそこから第一歩を踏み出してもらいたいと思っております。



橋本: 環境のことといいますと、地球のことですよね。地球のことといいますと、私、あなた一人ひとりのことですよね。環境問題は、専門家が10人いるよりも、生活者が例えば千人が動いたほうが、ずっと意味が有ります。

大内：我々も「1人が100%よりも、100人が1%から始めよう」と思っております。

橋本：皆さん「スタイルブック」お持ちでしょうか。これからスタイルブックに沿ってお話をいただきたいと思っております。



大内：（この冊子には）決して難しい話は、何ひとつ載っておりません。日常すでに皆様方が何気ない行動の中に行っていることばかりです。今回は、私の話を聞いていただいて、あえて意識をして何かしていただく、そのきっかけにと思っています。何気なくやっていたものがすでに環境配慮の行動なのですが、それをあえて意識をしてやっただけ、気をつけることがスタートです。

「スタイルブック」の前に簡単に「グリーン購入」とは、を説明します。「グリーン購入」とは、買いものからはじめよう、簡単な誰にでも出来る、行動ですよ。まず、ものを買う場合、皆さんは、価格・デザイン・品質・便利性等で選んで買われるのが普通だと思いますが、「グリーン購入」というのは、それに加えて環境に配慮したものをプラスして考える、ということが「グリーン購入」ということになります。

橋本：環境に配慮ということとは、どういうことですか。具体的に。

大内：環境といいましてもたくさんございます。「もったいない」の精神もそうです。

し、ゴミを出さない、化学物質の少ないものを買う、いろんな環境に配慮したものがあと思いますので、環境という視点を加えて物を買うということです。

橋本：例えば飲み物を買うとしたら、からになった容器はどうなるのかな、それがゴミにならないような、再資源化になるようなもので買うとかですか。

大内：買う場合は、そういうことです。

また、遠くで採れたものを買うのではなく、身近なものを買うとか、地産地消ですね。そういった視点を加えてみたり、いろいろな考え方があると思います。

橋本：私たちは、その必要性ばかり考えますけれども、この時計が動かなくなったら、どうすればいいんだろうというところまで考える、これが何から出来ているんだろう、というところまで考えるということですね。そういうことが環境を考えるということですね。

大内：ただなかなか見ただけでは、わからない部分があるので、そこが問題だと思います。これからは、その問題が解決されればわかりやすく買いものできるようになるのでは、と思います。

そして基本的な考え方ですが、まずものを買う場合は、必要性をまず考えるということです。やみくもに買わない。

橋本：ウオントよりニーズと言いますよね。欲しい欲求だけではなく必要かどうかですね。

大内：というのは、環境に配慮した製品というのは、どうしても高いというイメージがありますし、もちろん高いものもありますが、やみくもに大量に買って捨てるのではなく、必要な分だけ買うということで、総量的に買う量が減らすことが出来る。そうすると安くなることもあるという

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション2

ことです。無駄なものを買わないということ
ことです。

次にものが出来上がるときのライフサイクル。ものを作るときには、資源を採っていろいろな工程を経て、最後は消費者が使用しゴミとなるまで、製品のライフサイクルを考えましょう、とういのがひとつの視点となります。

次に同じような製品がある場合にどちらを買おうか。その製品を作ったり、売ったりしている会社が環境に取り組んでいるかというのをひとつの視点としましょう。いいものを作っても環境破壊をしている会社より環境に配慮した会社経営なり、社員の教育がなされていたり、そういった企業、お店から買いましょ。我々が買うことによって、環境に配慮した商品や企業がどんどん増えていくということです。

我々の買うという行動が、選挙でいう一票の意味合いとなるのです。当選するのが環境に配慮した行動をとっている企業となるのです。



橋本： 昨年度(この大会で)、ペオエクベリさんが言っていました。こういうセンスは、スポーツと同じだそう。毎日訓練をすると普通に出来るようになる。なかなか最初は、ハードルが高いかもしれませんが。

大内： まず意識して第一歩を踏み出すというのを繰り返していくうちに身につけてくることになると思います。

もうひとつは、製品の何を見て環境配慮というのか、なかなかわかりづらい。いろいろな環境に配慮したマークが、今たくさんあります。そのマークを見つけて、その製品を買うと、環境に配慮した製品を選ぶこととなります。しかし、どういマークがどのような製品についてるかというのは、なかなか広がっていないと思います。これからの課題になると思います。

それでは、「グリーン購入」についてですが、まずいろいろなシーンで考えて行きたいと思います。

お店で上手にものを買う場合、例えば野菜を買う場合、なにか気をつけていることありますか。

橋本： 私は、鮮度。やはり北海道のものと。

大内： それは、大事な視点ですね。それが地産地消。地域のものを買って地域で消費しようということですね。それでは、どうして地産地消がいいのか考えたことがありますか。

橋本： やはり鮮度がいい。それに「フードマイレージ」という言葉があり、遠いと製品を輸送する時に、かなりお金がかかる。CO2なども出しているので地球環境にも悪いということを聞いたことがあります。北海道のものを買うと北海道の農家や産地が潤う。

大内： その通りですね。経済的にも地域で買えば、地元で回ります。輸送コストやCO2なども減らすことが出来ます。もうひとつは旬の食材を食べましょ。

橋本： トマトなんかは、1年中出ていますよね。

大内： トマトの旬は、基本的には夏なんです。冬に食べるトマトと夏に食べるトマトの味の違いはいかがですか。

橋本： トマトは体を冷やす野菜ですから、冬は、あまり食べないようにしています。どうですか。夏は、畑になっているものをもいで食べると、太陽の味がします。

大内： その通りです。栄養価も高いからです。ですから旬のものを食べましょう。ただ北海道は、冬がありますので冬に旬な野菜は、何かと言うとなかなかないですけど、できるだけそういう四季を考えて、野菜なり食物なり、旬のものを食べるようにしよう。昔はよくその時期のものを食べると長生きすると聞いたことありませんか。

橋本： あります。山菜とか春の時期のものを食べると、冬の間、体が弱まっているので、山菜は、ものすごいパワーをもっているんで、取り込むことで体も活性化していく。自然も人間も一緒なのですよね。まさに自然の恵みですね。

大内： 旬の食材を食べると5年長生きするとか、昔からそういう言い伝えがあるのは、実は旬のものは栄養価が高いと。そういった意味でも体にも良いし、環境にも良い、経済にも良い、そういったことを意識してものを買うということです。

橋本： トマト1キロを作るのに夏・秋と冬・春では生産エネルギーに換算して10倍差が出ます。と書かれています。

大内： 当然、冬にトマトを作ることは、外では作れませんので温室等で作ります。温室というのは、加温、温度を高めなければなりません。そこで石油を焚いたり重油を焚いたりということで負荷がかかります。夏場ですと、外で栽培することが可能ですから、当然そういったエネルギーは必要ないと同時に肥料も化学肥料も少なくなり、そういう負荷も下げることが出来ます。季節の野菜を食べるといことは、体にも良いし、環境にも

良いし、経済も回るということです。

橋本： 本に書いていますね。ほうれん草も本来は冬野菜で、含まれるビタミンCも冬と夏では、3倍も違うのです。ほうれん草は、これから季節なのでですね。



大内： そういったことは自然と解かっていると思うのですが、それをなおかつ意識してみると、そういった側面があることがわかる。すると買うときに旬のものなのだな。意識するだけで変わっていくのではないのでしょうか。

橋本： そういったことをイメージすると買いものが楽しくなりませんか。

大内： 価格だけではなく、何処で採れたのだろうとか、別の見方というのは、なかなか面白いと思います。ちょっと外れますけど、いろいろな観光地に行ってお土産を買いますよね。お土産を買うときに、ラベルとか見ますか。

橋本： がっかりするのが、メイド・イン・コリアとか書かれているときです。それとびっくりしたのが、東北で買ったお土産が、札幌市白石区で作られていたことです。

大内： やはり、その土地のものを買わないとがっかりしますよね。そういうことを見たり考えたりすることも楽しいかなと思います。食べものを買う場合、同じものを

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション2

買うときに包装の少ないもの、今なんでもラッピングしていますよね。いろいろなスーパーで、取り組みは変わってきていますが、野菜・果物系は、ばら売り・山積みにしてあって1個、2個単位で買えるようにしているところもあります。昔はみんなそうでしたよね。

橋本： あんな上品な包装容器には入っていませんでした。でも今の時代にばら売りと聞くと、フランス人になった気がしませんか。

大内： 英字新聞とかにくるんでいただくとおしゃれな気もしますが。昔はそれに、量り売りがありましたね。必要な分だけ計って買う。

橋本： 大内さんもその時代ですよ。皆さんはご存知ですか。豆腐を買うときもザルをもって行きましたよね。しょうゆ・酒も一升ビンを持って行きましたよね。

大内： 枡で量ってかうものもありましたよね。それが今で言うと環境に対する負荷を下げていることだったのです。ある意味不便さが良かったのかもしれない。ただ、そのままその時代に戻れるかという、難しいですよ。ですから、そういった知恵をどれだけ取り入れて生活できるかということも大切だと思います。

橋本： 代々受け継がれた知恵だったのですね。失って初めて知るという。

大内： それから、買いもの際にされている方も多いと思いますが、よく考えて買いましょうということです。漠然と買いものに行くのではなく、あらかじめメモって買いものに行く。

橋本： しています。だいたい(何をかうか)忘れますからね。

大内： そして、余計なものを買ってしまうのですね。

橋本： 私の買いものを見ていたようですね。その通りです。エコバック小さいのをひとつ持っていくんですね、あまり買い物をしたくないので。でも余計なものを買って足りなくなりますね。よくないですね。

大内： そういったメモったものだけ買いに行くことも必要性を考えるとということでは役に立っているかもしれませんね。

それから、野菜では、健康面では、化学肥料を使っていない無農薬野菜を買おうと。

橋本： それがなぜグリーンコンシューマーなのですか。

大内： 化学肥料を使うということは、それだけ環境に負荷をかけることになるのです。野菜くずをつかった堆肥を使うことはかまわないのですが、化学肥料を使うということは、化学肥料を作るということで生産の段階でも負荷はかかりますし、それを土にまくわけですから負荷はかかりますよね。使わないものよりは、ですから出来るだけ有機の農産物を買ったほうが体にも良いですし環境にも良いです。ただ、価格は、ちょっと高いかもしれませんので必要な分だけ買ってください。

あと、お買い物で、北海道ではかなり浸透していますが、マイバックです。これって北海道が一番で、レジ袋の削減率が80パーセントです。本州がだいたい50～60%と言われています。北海道が一大先進地です。

橋本： おととしのこの大会で配ったのが、グリーンのマイバックでしたが、関係者の方、覚えてないでしょうか。今でも持っていますが良いですよ。

大内：うちにもあります。気をつけていただきたいのは、マイバック、いくつも持っている方いらっしゃいますよね。

橋本：4つぐらい持っています。

大内：レジ袋を断っても、削減率というのはほんのわずかです。マイバックを作る負荷の方がはるかに大きく、もとをとるには、何千回と使わないと、もとはとれないのです。ですからいくつもマイバックを買ってしまうと、逆に環境に悪くなってしまいます。

橋本：私は買ったものはひとつだけです。皆様はいくつぐらい持っています？

大内：やはり4つぐらい持っていますよね。レジ袋1枚作るのとマイバック一枚作るのでは何千倍も負荷が違います。ですからマイバックを何千回も使わないとレジ袋を断ってきた意味がなくなります。というのちょっと頭に入れて買いものをしていただきたいと思います。

橋本：でも北海道が普及率NO.1というのは嬉しいですね。

大内：そうですね。経済性も考慮している部分があると思います。大きく進んだ理由として、やはり有料化があると思います。1円でも払うよりは、払わないほうが良いというのがあったと思います。

橋本：急激な変化でしたね。最初はめんどくさいと思っていたのが、今では、マイバックを持っていかないと恥ずかしい気持ちになります。かなり意識がかわりました。

大内：ほんとに皆さん持っていて、逆に回りがあまりにもマイバックを持っているので、忘れた時にレジ袋くださいと言いくなくなっていますよね。

橋本：男の方もマイバックをお持ちになると、結構素敵だなと意識的に思います。

大内：レジ袋をもらっても何回も使いまわしをするとそれだけ負荷を下げることに繋がります。今は、コンビニに行く時もマイバックを持っていく方がいらっしゃいます。会社でもだれでも使えるマイバックを置いてあるところもあり、誰かが買いもの行く時はそれをもって買いものに行くということです。



橋本：マイボトルとかでも、まだめんどくさいと持っている人が少ないかもしれませんが、数年後には持っているのが普通になる時代も来るでしょうね。

大内：そうですね。これもレジ袋と考え方は一緒でして、ペットボトルひとつ作るより、マイボトル1つ作ったほうがものすごく負荷がかかります。これもマイボトルを何回も使わないとペットボトルを断っている意味がないということです。マイボトルを使う為に2リットルのお茶を買ってきて使うのでは元も子もない。マイボトルを使う場合は、お茶葉を買ってきて自分で入れるとかしないと環境の負荷を下げることはなかなかつながらない。

橋本：今年のこのイベントに来ていらっしゃった環境カウンセラーの渡辺さまが仰っていたのは、水道の蛇口から出る水が危ないからペットボトルを買って

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション2

いる人がいますが、水道の水が一番安全なのです。

大内：特に札幌は、ペットボトルに入れて水を販売しています。一番エコなのは、マイボトルに水道の水を入れて持ち歩くことです。

橋本：それと大内さん。包装のないもの、少ないものを選んでゴミ減らしという容器包装の話が出ていましたけれども、容器包装ゴミって本当に多いですね。

大内：私の家でも、分別すると容器包装のプラスチック・ビニールが一番多いです。

橋本：次が紙ごみです。分けるとわかりやすいね。

大内：そうですね。分けることも必要ですけど、出来るだけ少なく包装をしなくてすむようなものを出来るだけ買うということも当然必要ですよ。ですから詰め替えの利くようなものを買うとか。

橋本：お店もそういうシステムにしてくれたらそれを買うのにとしますけれど。

大内：ちょっとずつではありますが、売る側もいろいろなアイデアを出しつつ、ゴミをできるだけ出さないようにしてきています。企業側も包装を多くすることはそれだけコストがかかるということですから、包装を減らすということは、コスト削減になるのですから、売る側にとっても、良いはずなのです。ただ、どうしても見栄えの問題、衛生の問題で必ずしも全てのものを無くすわけにはいきませんが、そういう努力をされていると思いますし、我々は、できるだけそういうものを買うことで、そういった製品が広がっていくことにつながると思います。そこを意識して買ってみる必要がありますね。

橋本：容器包装は世界を見ても日本がダントツに多いし、家庭ごみの中で6割が容器包装だという話です。

大内：もうひとつ食べ物でいうと食べ残しですね。ちょっと写真を見ていただきたいのですが、これは京都ですけれども60世帯が3~4日で出す食品ロスの一例ですね。どうしても腐ったものというのが廃棄されるのは解かるのですが、包装の封の切っていないものがたくさんあるのです。



橋本：消費期限とか賞味期限が切れたものだったりするのですよね。期限内のものもあるそうですね。

大内：これでは相当もったいないですよ。これはそもそも買うときに買いすぎていると思います。それが集まるとこれだけの数になるということです。

橋本：聞いた話ですが、食べ残しによる食生活の損失というのは、日本の農業、水産業の総生産量に等しいくらいだそうです。こんなことでは日本はだめですね。

大内：これは、ひとりひとりの考え方を変えなければ。生活の仕方をちょっとずつ変えることでこれが何分の一に減っていくということです。

橋本：うちに帰って冷蔵庫を見えます。原型をとどめていないものがあるかもしれません。

大内：ただ冷蔵庫をあけると何も入っていないのもさびしいものですね。ですがたまに食べていないものが眠っていることがありますので、整理をしないと。

橋本：我が家の反省点は、タッパにすぐ入れてしまうことですね。タッパには色が着いていて外から中が解からないのでそのうち存在を忘れてしまうのです。透明なものにして、何時入れたと記入するとかしないとですね。

大内：今は、そういったケースや袋が売られていますよね。そういったものをうまく活用して食べものを残したとしても、多少保存の利くものに変えることで、できるだけ捨てるものを減らしていこうということですね。

こういう資料を見てもう一回冷蔵庫なり、棚の中を見ないとという気になりますよね。

橋本：また、たくさんものを入れていると冷蔵庫的にも良くないのですよね。

大内：そうです。省エネの性能からも詰めすぎは良くないですね。そういった観点からも残しておくというのは良くないことです。

先程も地元のものを食べようというお話をさせていただきましたが、私はあえて地産地消といふ言葉より、これは九州の方で言われているのですが、「地産地食」という言葉を使っているところがあります。これは地元のを地元で食べようということで、地産地消と同じ意味ですがあえて「地産地食」にしようとしています。

橋本：このお弁当は、なんですか。



大内：このお弁当は札幌駅の駅弁です。駅弁なのですが、実は先日のイベントでスタッフ用にこのお弁当を頼みました。私たちにあったお弁当ありますかと聞いたところ、ちょうどこのお弁当がありますと。これはすべて北海道内の食材で作られているお弁当なのです。お米はななつぼし、鮭、知床鳥、愛別産のまいたけのてんぷらなど全部北海道産で出来たお弁当なのです。季節限定ですけれども、これは良いと。本州の方も来ているので絶対良いPRになると思います。お願いしました。なおかつ、お弁当の包装をなんとかありませんかとお願いしました。捨てるだけですから。お弁当屋さんも考えていただいて、結果、リターナブルの容器に入れてもらいました。ただ見栄え的には、前の方がよく見えますが、後はゴミになるだけですから。私たちの要望に見事に応えていただきました。



3Rコミュニティ・カフェ トークセッション2

橋本： そういう意味では企業側の努力というのはすごいですね。私たち生活者の方が遅れていますね。

大内： それでこのお弁当を食べていただく前に、実際に説明したんです。どういう経緯でこのお弁当が出来たのか。食材を含めて、そういった話をしてから食べていただくと、ものすごく喜んでいただけました。

橋本： おいしかったでしょうね。

大内： ほんとにおいしかったです。大好評でしたね。

橋本： 大内さんも言ってみたら、相手が応えてくれたのですね。私たちもこういうものがあれば生活者として、グリーン購入者として嬉しいことを訴えると、叶うかもしれませんね。

大内： お店に行ってもこういうことが出来ないのかと、言ってみる。

橋本： ただ受身ではだめですね。

大内： ご飯を食べに行っても定食を頼む時、ご飯の量がどれくらいかわからないときに、私は、ご飯はどのくらいか聞くのです。店によっては、サービス精神で最初から大盛のところもあれば、少ないところもあります。多い場合は少なくしてくださいとお願いします。自分の食べる量を考えて頼むことにしています。

橋本： それは、全然苦にならない努力ですね。

大内： そうすることによってむだを少なくすることができるのかな。

もうひとつ話がそれますが、ある全国的に展開している有名なホテルですが、そこで結婚式をやり、披露宴ではいろいろなお料理がでる。そこでは、事

前に出席者に聞くのです。どれくらい食べますかと。

橋本： それは、おいしければ全部食べますし、食べ切れなければ残すではなくて。

大内： 事前に聞いて必要な分だけお出しする。そうすると当然食べ残しが少なくなるということです。そして自分が言ったことは責任を持って食べます。仮にS・M・LのMで頼んで多いなと思って自分で頼んでいるので全部食べるそうです。

橋本： 最近の結婚式では、昔は卓盛で自分の食べる分だけとればよかったのですが、フレンチみたく、ひとりひとり量が決まっていることが多いですね。自分の量が決まっているものですから、多ければ残してしまいます。体が大きい人と、私とでは食べる量が全然ちがいますよね。私は不自由しています。

大内： 食品衛生の観点から持って帰りたいくても施設側でお断りすることが増えてきています。

橋本： かえてください。大内さんの方で。

大内： それは行政の話しになると思うのですが、もったいないですよ。

橋本： 目の前においしい料理があつてこれで晩御飯つくらなくてもよくなったと思うのですが。法律を変えれば出来ることですよ。

大内： どこまで食品衛生上の問題と考えるかですよ。

橋本： ドギーバックに詰めた時点であなたの責任ですというシステムにすればどうですか。

Greener になろう！

大内： 良いかもしれませんがね。持ちかえる場合は、持ち帰る方の責任でお願いしますと。

橋本： そうしたら家から皿やなべを持ってきます。でも皆さんも、皆がやればそうしますよね。皆がやらないともったいないと。残したものはどうしているのでしょうか。

大内： 結局捨てていると思います。

橋本： そんなことしているから日本経済は……ですね。

大内： ただホテルもいろいろな活動をしていて、捨てるのではなく堆肥にしてみたりという取り組みも進んでいます。

橋本： 堆肥にするのであればお腹に入れたいものですね。

大内： そうですね。堆肥にするくらいなら残さない方が良くと思います。

ここでちょっと話題をかえてこんな質問をしてみたいと思います。地球温暖化の影響についていちばん大きなものはどれでしょうか。地球温暖化に影響を及ぼすものというのは世界の科学者の9割以上は、その原因はCO₂だといわれています。ものをつくったり運んだり売ったりする上で必ずCO₂が発生します。ここで質問です。

1番は、サインペン。2番はバラ。3番はハム。4番はお米。この4つのうち製品1グラムあたりCO₂排出量が一番多いのはどれでしょう。



橋本： 1番のペンですかね。1番のペンだと思ふ人。

大内： 2番のバラは？ お一人ですね。3番のハムは？ライバル多いですね。4番のご飯は？
では正解です。バラが一番です。

橋本： バラは意外ですね。

大内： 1グラムあたりというのがミソでして、バラは軽いので、しかも温室で育てていますので。製品としてつくるバラは、温室なり負荷をいっぱいかけているということです。全てのバラがそうかということそうではないのですけれども、一般的にはということです。

橋本： 美しいだけに負荷が多いんですね。

大内： 意外な側面があるということですね。
先程少し出ていましたライフサイクルのお話しですが、ちょっとだけさせていただきます。ゆりかごから墓場まで製品の一生を考えるというのがライフサイクルです。資源を取り出して製造、製品をつかってそれを運んで、流通して買った人が使用して、最後はゴミとして廃棄されるまでです。しかしその中に最後は廃棄ではなくもう一度製造に戻しましょうというのがリサイクルです。

ものをひとつ買うときには、工程がそれぞれあってそれぞれでCO₂を排出しているのです。「フードマイレージ」、遠くから運んだ野菜というのは流通のところでCO₂を一番出しています。近くのものを買うときより出ているということです。資源も遠くから運んだものを使用するということは、運ぶ時にそれだけエネルギーを使っているということが見えてきます。先程もお土産もののお話しが出ましたが、何処で作られているか見るということは、ライフサイクルの一部を見ていることになります。

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション2

橋本： 東北で買ったあめが北海道で作られていると、ずいぶん付加価値が高いですよ。

大内： そういった視点で考えていくことです。

それでは、次のシーンについてみます。今度は家の中で商品を見直してみましょ。

グリーンな商品は、何でしょう。皆さんよく解かっているんですけど、家電製品、それと電球、蛍光灯、LEDランプというのがありますし。

橋本： 今、LEDの製品がすごく多いのですね。一時期は普及するかどうかと聞いていたのに。

大内： ただ、まだまだ値段も高いです。しかし長く使うことによって元が取れるということが出来ますので長く使うことがポイントです。そして出たばかりですので見え方、光り方が蛍光管と違いますので、省エネではありませんけど、使い勝手がいいかどうかよく考えた方が良いと思います。

橋本： LEDだから良いというのではなく、もう一回生活の中でイメージして考えて欲しいですね。

大内： 特に見え方が人によりけりですので、LEDというのは、(LEDは)光がまっすぐ進むのです、広がりが少ないのです。真下は明るいのですがちょっと外れると回りは薄暗いという見え方が多いのです。

橋本： お掃除していない部屋にはびったりですね。

大内： 蛍光灯は、光が全体的に広がるのでそれに慣れていない人にとっては急に省エネだからといってLEDに変えてしまうと、見え方に違和感を感じる人が多い



と思います。買うときには、そういうことに気をつけていただければと思います。

あと、電池とかは、充電式の使い回しの利く電池があります。

橋本： 知りませんでした。充電器も一緒に買えるのですか。

大内： 一緒に売っています。ですから、そういうものを買いますと1回1回捨てなくても良いことになります。ですから、ものを買うときには長く使えるという視点も入れておくと良いと思います。

橋本： 電池を捨てるというのも大変ですよ。

大内： 廃棄するのも大変ですので、使い回しの電池が良いわけです。

あと、部品が一部取り替えられるもの。たとえば歯ブラシのブラシの部分だけ変えられるものも売っていますので、そういったものを使うと柄の部分はずっと使えることになります。

橋本： それ売っているのですか。知りませんでした。ご存知でした。

大内： なかなかわかられていないと思います。そういったものを人から聞いたので、今度探してみようという楽しみも出てきますよね。いろいろな情報が入っ

てくと確かめてみよう、買ってみよう、そういったものの見方で買いものも、また楽しくなるのかなと思います。

あと、間伐材の机で資源の有効利用とあります。間伐材というのはわかりますか。

橋本： 間引きした木ですよ。

大内： 森林を整備する上で間伐というのは必要なのです。しかし、間伐材の有効利用は、なかなか進んでいないのです。有効利用が進まないということは、間伐が進まなかったり、間伐したものをそのまま切り捨てて置いてくる、ということになりますので、環境には良くない。有効に利用すると間伐もちゃんと進んで森林が育つ、整備されるということですよ。当然、材料としても近くのものを使うことになりますから食品と同じですよ。食品の地産地消と同じ意味合いで「地材地消」という言葉になります。木の場合は、「フードマイレージ」に対し「ウッドマイレージ」となります。地域の材を使うということでも環境の負荷を下げることが出来ます。

橋本： 間伐材で割り箸ばかり作っていたら割り箸が増えますね。

大内： 今、いろいろな製品がありますので、何で出来ているのかなとみていただくと結構北海道の間伐材を使用していることがあります。コピー用紙とか封筒とかも紙製品も見ていただけたらと思います。

ここで最初に言った、ものを買うときにマークがいっぱいあるという話をしました。
(モニターをみて)これだけあるのですね。

橋本： どのマークが何かわかりますか。はじめて見るものもあるのではないですか。

大内： 左上にあるのが一番有名なマークのひとつです。地球を腕で抱いているのです。これは、エコマークです。

橋本： アルファベットのEの文字になっているのですね。

大内： こういったマークを付いているものを選ぶと間違いなく環境に配慮した商品のひとつですよということです。

橋本： 地球に優しいですか書いています。

大内： ただこれだけありますので、私もこれを全部説明しろといわれるとなかなか出来ません。

橋本： エコ検定というものがあるのですが、こういうものが問題になるのですよね。何のマークでしょうか。
海のエコラベルというものもあるのですね。

大内： 海のエコラベルというのはMSCという略称ですけれども、きちんと漁業をするうえで管理をしていく。採り過ぎない。毎年きちんとした量を採り管理していくという漁業が、国際的な認証を受けているものです。実際に商品としては、鮭ですとか北陸の越前カニとか一部認証をとった商品もあります。

橋本： エコガラスというのもありますね。



3Rコミュニティ・カフェ トークセッション2

大内： エコガラスは、私の頭にも浮かんできません。

あとマニャックでありますけど、この黒いのです。これはカーボンフットプリントというマークで、直訳で炭素の足跡というものです。先程お話ししましたライフサイクル、資源から廃棄まで、ひとつの製品で廃棄まで関わって排出されるCO2の量を示したマークなのです。ですから、この123グラムというのは、商品が捨てられるまでに排出するCO2の量をここに表示してあるのです。この制度がこれから少しずつ進んでいっています。これが逆にものを買うときに判断基準の大きなひとつとなるかもしれません。

橋本： はっきり数字があると責任感もましますものね

大内： 同じ製品があってもメーカーが違えば、この123というのは違うかもしれません。片方は100かもしれません。片方は150かもしれません。そうなりと同じ製品でもどちらかがCO2を出しているのかなと思うと、少ない方を買いますよね。そういった時代がこれから来るかもしれません。

今日は、食べもの系のお話ですのでそちらの話を多くしました。次は、お出かけですとか外に出た場合です。出来るだけ公共の交通機関を利用しましょうということですね。

橋本： ここにいらっしゃる方は、地下鉄などを利用される方が多いと思います。

大内： 鉄道が環境には一番やさしいのです。一番環境に悪いと言われるのが自動車です。やはり一度に運ぶ人の数が少ないですから。その割にエネルギーをたくさん使うので、やはり鉄道や地下鉄が一番環境に良いということになります。

あと、ホテルやレストランなども環境に配慮したところをうたっている、前面に

出しているところもあります。もし観光に行った場合には、そういった環境に配慮したことを出しているところを選んで利用してみるというのも面白いと思います。その施設の取り組みも一緒に見ていくという視点で選んでいくということです。

あと車も燃費の問題ですとか、これからはEV、電気自動車の時代も来ると言っていますので出来るだけ燃費性能の良いものを買う。これはもう当たり前ですね。

あと環境に配慮した企業活動を行っているところを応援しよう。そのものを買うということで応援しようということは、我々にもできる、我々にしかできないことなので、そこを積極的に考えてやってみることが大切ではないかと思えます。



ご家庭だけではなくオフィスで出来るものもありますよね。ここでひとつご紹介します。これなにかわかりますか。

橋本： ホチキスですか

大内： これはただのホチキスではないのです。針がないのです。

橋本： じゃあどう止めるのですか。

大内： 紙を2枚ほどもらえますか。使い方は同じです。(実際に紙をとめる) こういう

ホチキスもあります。こうすると針は要らないですよ。これですと捨てる時もホチキスを外さなくても良いです。このまま紙ごみとして捨てられます。

橋本：人間って賢いですね。これ高いのですか。

大内：これは1000円くらいだと思います。こういったものを見つけに買いものに行くということも面白いかもしれないと思います。

橋本：会話の少なくなったご夫婦には良いかもしれないですね。こんなものがあるというとお父さんも真剣に聞くとお思います。

大内：あと本日も話の出ているマイ箸ですね。このマイ箸のどこがいいかというと、使っていない廃材を使っていますよね。ここが良いと思います。エコバックもこちらの三笠市のようにつかわない傘から作っている。そうするともっと負荷が減りますよね。レジ袋のもとをとるには普通に売っているマイバックよりも回数を使わなくても元が取れるということです。

橋本：すごいですよね。(傘の)骨を外したのですね。よくやりましたね。

大内：そういった視点がとても大切で、人によっては新聞紙でエコバックをつくった方もいるみたいですよ。ですからものの考え方ひとつで環境に対する考え方も変わってきます。まずやってみるということも大切ですが、ちょっと意識をいただいで、まず一步を踏み出すということがとっても大切です。

最後に、今後、我々が同じような生活を繰り返していくとどうなるでしょうか。ちょっとだけお話しさせてください。

現在、世界人口が何十億人といいますが、我々のような生活をしている

のは、ほんの一握りです。皆さんもご存知だと思いますが、アフリカとかにはとても貧困な方々があります。その方々が、我々と同じような生活レベルまで上がるとどうなるのでしょうか。今でも地球問題は大変ですよ。そうなった場合、地球がいくついるのだらうと計算した人がいます。計算すると4ついるそうです。いまの地球では全然足りないということです。4倍の地球がないと暮らしていけないということになるのです。ですから、一部では、環境問題は人口問題だという人もいます。貧困の問題も環境の問題だという人もいます。

橋本：日本は、これから人口は減少していきますが、これからは、アジア、アジアの山場が終わればアフリカと言われていきますから、どんどん人口は増えることになります。こんな生活していたら(地球が)4つもいることになるんですね。

大内：この生活を全世界の人がすると、全然、地球が足りないのです。ですから我々が、まず気をつけなければいけない。見直しをかけていかなければならない。自然が回復する力以上に私たちが使っているということです。

最後にグリーン購入は、当然環境に対する一票であるという、我々が未来を握っているのだという、我々の行動が大切なのだということです。それで「1人の100パーセントより100人の1パーセント」をまずはじめましょう。最後にやっぱり「Greener」になりましょう。

橋本：皆様どうでしたでしょうか。すこし参考になったでしょうか。

北海道グリーン購入ネットワーク事務局長大内一弘さんの「Greenerになろう！」でした。拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

大内：ありがとうございました。

『シェアリングという考え方「ポロクル」』

環境NGO ezorock



ezorock1

皆さんこんにちは。環境NGO ezorockです。私の名前は、「ちゅーそん」と呼ばれています。環境NGO ezorockでは普段からボランティアのみんなにあだ名がついているので、今日もこれからみんなあだ名で自己紹介をしていきます。

それでは、今日は、サイクルシェアリング「ポロクル」という考え方を提案します。

まず、その前に環境NGO ezorockについて紹介します。環境NGO ezorockは、「全ては次の世代の今のために」をミッションに若者の育成と社会との対話を行っている団体です。今スライドに出ているのは、ライジングサン・ロックフェスティバル・イン・エゾの写真です。このイベントでは、約6万人の来場者に対して、10代から20代のボランティアをメインに160人で環境対策活動を行っています。さらに環境対策をより見える様にする為に、ライジングサン・ロックフェスティバルで出た生ゴミを堆肥化し、有機野菜を作っています。その野菜を次の年のライジングサン・ロックフェスティバルで無料配布し、来場者に生ゴミのリサイクルを体感してもらっています。一番左の写真が会場に出た生ゴミで、その次の写真が畑に生ゴミと一緒に撒いている写真で、その次が出来た作物です。これはスイカです。最後にライジングサン・ロックフェスティバルの会場で、来場者の方と一緒に体感してもらっている写真です。その野菜を作っているのが環境NGO ezorockの中のオーガニックファームというチームです。ezorockには、その他にもさまざまなチームがあります。そのひとつがポロクルチームです。



では、「ポロクル」の紹介をしたいと思います。私たちezorockは、只今説明したようにイベントでの環境対策のほかに札幌市のサイクルシェアリング「ポロクル」という活動を行っています。「ポロクル」という名称は、札幌の「ポロ」とサイクルの「クル」をあわせて、さっぽろのサイクルで「ポロクル」と名づけられています。私たちの活動は、後ほど詳しく説明したいと思います。今日私たちは「ポロクル」を使ったライフスタイルの提案をしたいと思います。

ezorock2

それでは、会場の皆さんと一緒に今の私たちのライフスタイルについて考えて見ましょう。私たちは、ものを沢山つくって、沢山使って、そして沢山捨てるというライフスタイルが定着してしまっています。例えば、傘。私は、よく天気予報を見ず出かけてしまって、出かけた先で雨にうたれてしまって、コンビニに駆け込むということが、本当によくあります。しかもその買った傘をどこかに置き忘れたり、無くしたり、壊したりして無駄が多いと感じます。そんなライフスタイルってどうでしょう。お金も余計にかかるし、ゴミも増えるし、良いことはあ

シェアリングという考え方「ポロクル」

りません。しかし、もしお気に入りの傘が手に入ったらどうなると思いますか。まず大好きなものは、大切にします。そして、ずっと使えるように壊れたら修理したりきれいに掃除したりしますよね。無くさないように名前を書いてどこかに置き忘れたとしても手元に戻ってくるようにします。ということは、一本の傘を長く使うので余計な傘を買わずに済みます。

この例のようにエコなライフスタイルは、窮屈で制約ばかりのものではなく、ひとりひとりのちょっとしたアイデアでもっと楽しく、しかも環境にやさしくなるのです。今日はそんな楽しいライフスタイルを「ポロクル」を通じて提案したいと思います。

それでは、突然ですが会場の皆様にアンケートをとりたいと思います。お財布を盗まれたことのある人は挙手をお願いします。「落とした」や、「なくした」ではなく盗まれた人、挙手をお願いします。2名ほどいらっしゃいますね。盗まれたことは皆様あまりないようですね。次に自転車を盗まれたことのある方、挙手をお願いします。けっこういらっしゃいますね。

では、なぜこれほどまでに差が出るのでしょうか。お財布は、バックやポケットの中に入れて大切に身に付けておきますよね。ですが自転車はどうでしょうか。とりあえず、そこらへんに停めちゃおう、ちょっとだけだからカギかけなくても良いや、などきちんと駐輪場にとめなかったり、鍵をかけなかったりしていませんか。きっと皆さんにとって自転車は意外と価値の低いものになっているのかもしれない。

実際に全国の放置自転車の数は、24万3千台で、年々廃棄される自転車は減少しつつありますが、まだまだ大量に廃棄されているのが現状です。北海道は15,511台と全国で

第6位の多さとなっています。そして去年、北海道で撤去された自転車はなんと2万5千台です。廃棄されたものは約6千台もありました。その廃棄されたうちの約80パーセントは資源回収者に回収されています。毎年これだけ多くの自転車が放置され撤去、廃棄されているという問題は皆さんが自転車を大切に扱っていない為なのではないでしょうか。これらの問題の解決策として私たちは、自転車のシェアリングをお勧めします。それでは、私たちezorockの活動のひとつである「ポロクル」のシェアリングシステムをご紹介します。

(映像コメント)

1台の自転車をみんなで使うポロクルという名のサービスが始まってちょうど半年。さらに使いやすくなって利用者も急増中です。

ありましたね。こちらがポートと呼ばれる、「ポロクル」の貸出拠点です。今、札幌の中心部には、このような貸出拠点が40箇所もあるのです。最近札幌の中心部でよく見かけるようになったこの白い自転車。うまく皆さんでシェアリングしていただいているのではないかと思います。「ポロクル」は札幌の中心部に設置されたポートとポートの間で自由に乗り降りできる新しいサービスです。借りたところに返すことなく片道で利用できるのが大きな特徴です。風が気持ち良いですね。利用できるのが午前7時30分から午後9時まで。30分につき105円が基本料金で基本料込みの1ヶ月1050円のコースもあります。今年4月、4箇所のポートで始まった「ポロクル」。今月には40箇所目となるポートがオープンし、当初21台だった「ポロクル」は、一気に200台以上に増えました。利用回数や登録者も右肩上がりに増加。天気の良くないことが多かった9月でさえ前の月を上回り登録者は、いまや3千人を超えました。

ezorock2

皆さんこれで「ポロクル」のことはおわかりいただけたでしょうか。では、実際に「ポロクル」のシェアリングの様子を見てみましょう。「ポロクル」には、現在300台の自転車が稼働しており、それぞれの自転車に1番から300番まで



3Rコミュニティ・カフェ トークセッション3

番号がついています。そして今年度一番多く「ポロクル」が利用された日とその番号は9月29日の木曜日で164番の「ポロクル」です。

それでは、皆さんにシェアリングとはどういったものなのかを見ていただきます。

ここは、卸ポートとよばれるポートです。男性が卸ポートから道銀にいきましたね。

4人目は、ドコモから道銀まで行きました。5人目は、道銀からどこかへ行くようです。

5人目の50代の女性は、道銀からサッポロファクトリーまで行ったようですね。お買いものでしょうか。



6人目は、サッポロファクトリーから全日空ホテルまで。

7人目は、全日空ホテルから東京ドームホテルへ行きました。

8人目の女性は、東京ドームホテルから借りていくようです。

このようにひとつの自転車でこれだけ多くの人に、そしてさまざまな用途に使われている「ポロクル」です。

つまり「ポロクル」は1台で10台分の働きをしているのです。それは余分に生産されてそして廃棄される自転車が減ることなのです。そして9月29日のポロクルの合計利用人数は、629人でした。もしこの629人がひとりひとり自分の自転車を利用したら当然629台という莫大な数の自転車が必要となります。自転車が増えれば増えるほど駐輪場に自転車が溢れて置く場所がなくなり、あらゆる所へ放置してしまうという問題が出てきます。しかし、シェアリングによって1台の自転車を沢山の人が共同で使えば沢山の自転車は、必要なくなり溢れて放置される自転車がなくなるのです。ということは、放置されている間にいたず

ずらされたり、盗まれたり、といった危険から大事な自転車を守ることが出来ます。そして放置自転車がなくなれば、きれいな街を作っていくことができます。というように私たち自身にも、そして街にとっても自転車をシェアリングするという事は、とても快適なことなのです。このようにシェアリングにはたくさんの良い面があります。



ezorock1

でもちょっと待ってください。今ご紹介いただいたように、確かにシェアリングには、1台の自転車を大勢の方が利用できるからこそ良い点があります。しかし一方で、皆が利用するからこそ出る問題もあります。今からその問題を紹介します。

まず「ポロクル」は、ポートによって駐輪できる台数が決まっています。そのため、1つのポートに沢山のユーザーが自転車を返却したら、ポートは満車状態になり、返却しに来た人が返せないということが起きてしまいます。この左の写真がまさにその状態です。その逆のことも考えられます。ひとつのポートから自転車を借り続けるとポートは空車状態になり、自転車を借りることが出来なくなります。右の写真がその例です。

他にも次のような問題があります。通る道や天候によって、左の写真のように汚れた自転車や、右の写真のようにサドルを高くしたまま返却された自転車もあります。これだと次に利用するユーザーさんの衣服が汚れてしまう。サドルを下げなければ乗れないユーザーさんがいるなど、みんなが使っているのに快適に「ポロクル」を使えない人が出てきてしまいます。また、ライトがつかない自転車やパンクした自転車を見かけることもあります。たく

シェアリングという考え方「ポロクル」

さんのユーザーさんが利用すればまれにこのような故障自転車が出てくることもあります。そのような自転車に気付かずに乗っていたら命に関わる事故が発生してしまうかもしれません。このような問題を発生させないように私たちクルーが日々行っている作業をこれから紹介したいと思います。それではお願いします。



ezorock3

ポロクルの「しょこたん」と言います。今、シェアリングの問題が結構沢山あったと思いますが、それに対応する為に私たちクルーがいつも何をしているのか、ということこれから説明していきたいと思っています。

私たちクルーが毎日していることは、主にこの二つです。1番、自転車やポートの点検・メンテナンスと、2番のポートにある自転車の台数調整というのがあります。この2つについて今から説明していきたいと思っています。まず自転車点検から説明していきます。

私たちは、毎日一回、全ての自転車のメンテナンスを行っています。メンテナンスのポイントには、6つのポイントがあります。これからそれを実演していただきたいと思っています。では、「シュワッチ」お願いします。

ezorock4

ご紹介に預かりました「シュワッチ」です。皆さんと一緒に点検の作業をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

まず目視をしていきます。見た目だけおかしいなと思うポイントがないかときちんと見て、それから実際に触って点検していきます。

(まず、ブレーキの点検をお願いします。)

ブレーキは、右側が前輪、左側が後輪に対応しているブレーキとなっております。点検を



する時は、右側のブレーキをぎゅっと握って前後に揺らして前輪がそのときに動かないかどうかをよく見て、ブレーキの利きを確認します。後輪も同じように握って揺らして後輪が動かないかを見て、ブレーキの利きを確認していきます。このときにもしブレーキの利きが弱い場合は、後輪だと車軸の近くを調整してきつくしたり、きつすぎる場合は、ゆるくしたりしています。前輪も同様に行っています。

(では、次にライトの点検をお願いします。)

ライトは、前輪を持ち上げて実際にタイヤを回してみてもライトがきちんと光るかどうかを確認します。ライトは夜間時に無灯火運転をしないように、それを防ぐ為に行っています。無灯火運転は危険なので、必ずチェックするようにしています。

(では、次は空気圧をお願いします。)

空気圧のポイントは、タイヤの側面を見るのではなく、直接地面に触れる面をぎゅっと押してあげて圧の入り具合を確認します。また、空気の入れ口のキャップが緩んでないかということもしっかり確認します。前輪も同じように



圧の入り具合をチェックして、空気の入れ口のキャップ自体が緩んでないかを見ていきます。空気圧は、低いまま走行しているとパンクの原因にもなるので、しっかり毎日見えています。

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション3

(それでは、次はサドルです。)

サドルは実際に触って確かめるのですが、もしサドルが高すぎるものだったり、ぐらぐら揺れてしまうものがあると大変危険です、実際に乗ったときにガクンと下がってしまったらすごく危ないので、そういう時は、適切な高さに調節して、しっかり締めてぐらつかないかを確認していきます。

(次は、反射板です。)

「ポロクル」の自転車の場合、反射板が4つついていて、ひとつは後輪カバーに、ハンドル部分にひとつ、そして前輪と後輪それぞれにひとつずつついていて、実際に触って破損がないかしっかり確かめていきます。反射板がないと、夜の走行時にとっても危険になるので、きちんと見えています。

(あとは、ベルです。)

ベルは実際に鳴らして耳で聞いて鳴ることを確認します。

これが終わると清掃しています。特に雨が降った後だと泥はねがひどくなって車体がとても汚れています。雑巾を出してしっかり念入りに、雨の後は特に念入りに拭き掃除をしています。サドルのカバーが錆びやすかったり、汚れが着きやすかったり、ボディー自体が白いので、結構汚れが着きやすいため、普段から鞆に雑巾を入れたり重曹水を入れて、いつでもきれいに出来るようにやっております。

これで点検実演は終わりです。「シュワッチ」ありがとうございました。

お聞きいただきありがとうございました。

ezorock3

というような点検を毎日一回一台必ずするようにしています。これもユーザーさんに安全に使ってほしいというのと、1台の自転車を長く使えるようにというので、日々メンテナンスをしています。

では、次に台数調整について説明していきたいと思います。台数調整というのは、ポートで自転車が多くのポートから少ないポートへ自転車を移動することなのですが、これはユーザーさんの利用が多くなる通勤ラッシュ、帰宅

ラッシュ時におきやすくなっています。私たちクルーは、システムでどのポートに何台自転車があるのかということを常に把握するようにしていて、それを見て、多いポートから少ないポートに自転車を移動しています。あまりイメージがつきにくいと思いますので、これも実際に実演していきたいと思います。

スライドを見ていただくと左側がNTTドコモで満車になっていて、右側がロイトン札幌で空車になっている状態を仮定してやっています。こんな時にクルーが、自転車をNTTドコモからロイトン札幌へ2台移動すると、NTTドコモは、14台から12台で、ロイトン札幌は、空車から2台に増えて、ユーザーさんから貸出・返却が出来るようになります。というように、ユーザーさんがちゃんと借りられるようになりました。このようにして私たちクルーは台数調整をして、今のように2台もしくは3台位だったらクルーが乗って移動したり2台を手を持って運んだりということをしています。これもユーザーさんにもっと便利に使っていただきたいということで、台数調整を行っています。



私たちはなぜ今やったような点検や台数調整というような活動をしているのかというと「ポロクル」を通じてこのような札幌を実現したいからです。

まず一つ目は、地球環境にやさしい街づくりを実現したい。ということを考えています。このスライドだと通勤の様子を表しているのですが、自宅から会社まで上のところでは自動車です。全部通勤しているのですが、これを「ポロクル」と公共交通機関を利用して都市部を

シェアリングという考え方「ポロクル」

地下鉄と「ポロクル」を利用すると、全部自動車で行かなくても全然OKということになります。今までだと「ポロクル」がない場合、駅から会社まで徒歩で歩かなければならなくて、ちょっと大変だとか、朝、時間が惜しいので時間がかかるからやだな、と思ったりするかもしれませんが、「ポロクル」を使えば時間短縮で便利に使えるのではないのでしょうか。このように都市部の移動を公共の交通機関や「ポロクル」を利用すれば車社会からの転換が図れるのではないだろうかと思っています。そうすることでCO2の排出を減らしてエコな社会を実現していけたらと思っています。

次は、安全に歩いて美しい街にしたい。ということを考えています。

前のスライドでもあったのですが、札幌は放置自転車や撤去される自転車が多いと数字でも表されています。そういう現状をこの問題を改善すれば違法駐輪が減りますよね。違法駐輪が減れば右側の写真のようにすっきりときれいな歩道になって、歩きやすく安全に暮らせる街が実現するのではないかと思います。

それを実現する為に「ポロクル」を利用してもらいたい。その「ポロクル」を便利に利用してもらいたいので、点検や台数調整を行っています。また、他にもいろいろな活動を行っていき、そのひとつにアダプトプログラムというのがあります。このスライドの写真は、まさにアダプトプログラムの活動をしているところです。アダプトプログラムは、自転車の整理整頓などを行っています。市や大通りまちづくり株式会社と連携して都市部の放置自転車の整理を行っています。「ポロクル」では、具体的にはポートを中心として歩道上にはみ出している自転車を揃えるようにしています。このスライドで写っている彼の左腕に腕章があるので解かりますか。青と黄色の腕章をしてやっているのが、アダプトプログラムをやっているという証ですので、腕章をして自転車の移動をしています。こうした活動で歩行者の空間を確保して、また、景観に配慮した札幌への街づくりの一役を担っていきたいと思います。これによって市民の方はもちろんのこ

と、初めて札幌を訪れる観光客にとっても、きれいで行動しやすい札幌になれば良いなと思います。



3番目が自転車の交通マナーが良くなって欲しいということで、交通マナーが良い街を実現したいと思っています。最近、私がクルーとして車道を走っていると、一般の方でも自転車で車道を走っている方を良く見かけるようになったと思いますが、車道で右側を走行している方とかがいらっちゃって、そういう方と会ってしまうと、私が左側走行であちらが右側走行で行くとぶつかりそうになって怖い思いをしたこともあるので、そういうことを無くす為にも、交通マナーを徹底していきたいと思っています。

具体的には、「ポロクル」のクルーとして何をしているのかというと左側のハンドサイン。この写真のハンドサインは止まれ、停止のハンドサインなのですが、右手でちょっと斜めのほうに手を差し出すと停止になります。あとハンドサインは、右折は右手を横に伸ばして、左折する時は腕を曲げると左折になります。ハンドサインの他には、車道を左側走行するようにしたり、歩道や一方通行のところなどは、逆走しないように、歩道は自転車を押して歩いていくことにしています。それで、安全走行を心掛けています。

あとは、マナー啓発イベントにも積極的に参加しています。これは、今年の9月に大通りで交通安全パレードがあったのですが、それにも「ポロクル」が参加させていただいて、このように「降りたら歩行者、乗ったら車の仲間」というのをさげて街を練り歩きました。このときの

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション3

ニュース映像があるのでご覧下さい。
(ニュース映像)



というようにニュースに取り上げられています。皆がお互い気持ちよく移動できるようにマナー啓発を徹底していきたいと思っています。

次は、皆が楽しく賑わいのある街を実現したい、と思っています。「ポロクル」では、具体的には、左側のホテルプランと右側の「まちのわ」にも参加しているのですが、皆様「まちのわ」をご存知ですか。あまり知られていないようなので説明させていただくと、「まちのわ」は、地域活動に参加することでサピカにポイントを貯め、街とみんなにうれしい特典と交換できる10月中旬よりスタートした札幌地域ポイントなのですが、サピカは、地下鉄などで利用されている方も多と思うのですが、それにポイントが貯まっていくというシステムで、具体的な地域活動というのは札幌大通大学の授業が明日あるのですが、それに参加するとポイントが貯まるとか、大通付近の掃除をするというイベントがあるのですが、それに参加するとポイントが貯まるということがあります。そのポイントを貯めると、ドニチカきっぷ、札幌市指定ゴミ袋、円山動物園年間パスポートと交換できるそうなので、ぜひ皆さん参加してみたいはかがででしょうか。その「まちのわ」に「ポロクル」を使ってもポイントがたまります。このようなサービスを通じて、ユーザーさん、市民の皆さん、観光客の方々とコミュニケーションをはかって、ポロクルの普及と地域づくりに取り組んでいます。

(映像コメント)

札幌中心部にあるロイトン札幌は、今週から宿泊客向けにポロクルを1日1050円で利用できるサービスを始めました。これまで必要だったクレジットカードの登録手続きを省き、ホテルの受付ですぐに借りられるのが特徴です。やはり、なかなか手続きが面倒なこともあって、今一步踏み出す方がいなかったのですが、こういった初日からお客様からご好評をいただいております、すごく反響が大きいです。

札幌の地下鉄などで利用できるサピカ。今月からこのサピカで「ポロクル」も借りられるようになったのです。今月、地下鉄から「ポロクル」、「ポロクル」から地下鉄へと一枚のサピカで利用することが可能になりました。しかもサピカを使うと登録料がかからないというメリットもあります。

ezorock3

今のVTRは、以前テレビで取り上げられたホテルプランの説明のVTRでした。

次は、札幌での自転車の存在価値を高めたい、と思っています。クルーとして車道を走行していた時に、自動車にあおられたり、邪魔者扱いされることがまだまだ多くて、現状では、自転車の存在価値というのがまだ低いのではないかと考えております。そこで、これまで示してきた活動を真摯に行って、自動車を運転する人、歩道を歩く人、自転車に乗る人、それぞれが存在を認め合って住みよい街にしていけたらな、と思っています。ここで、クルーの言葉があるのでVTRをご覧ください。



シェアリングという考え方「ポロクル」

(映像コメント)

毎日のようにポロクルの修理・点検に汗を流す鈴木さん。スタッフたちは、「ポロクル」を通じて札幌を走る自転車の存在価値をもっと高めたいと考えています。まだ自転車が車道を走っていると、クラクションを鳴らされたりとか、まったく存在を認められていないようなところが多いので、そういうところを「ポロクル」を通じて、徐々に変えていきたいと思っています。1台の自転車を皆で使うという新たなスタイル。「ポロクル」が札幌の未来の街づくりを変えるのかもしれない。

ezorock3

私たちは札幌をより良くする。そして皆さんのエコなライフスタイルを実現する方法として「ポロクル」を提案したいと思います。皆さんも「ポロクル」を通じて街づくりについて考えてみませんか。



(進行)橋本登代子:

では、この映像に出ていますようにこのあと数名の方からご意見、ご感想をお伺いしたいと思います。ご感想いただけますか。

男性1: なかなか便利なものだなあと考えて。私も自転車、今日も乗ってきているのだけれどもなかなか良いと思いますよ。

橋本: しかも若い人達を中心になっているというのも良いですね。

男性1: そうですね

橋本: ちょっとお伺いしますが、皆さんは学生さんがメインで何人ぐらい、いらっしゃるのですか。

ezorock: クルーは約30人くらいですね。

橋本: 移動するのとか大変そうですね。

ezorock: 最初は大変でしたけれども、最近ではみんな慣れました。

橋本: 学生さんの方が多いんですか。

ezorock: そうですね、私は学生ではありません。

橋本: あなたの場合は、何か仕事はしているのですか。

ezorock: 今は、フリーターです。

橋本: ちょうど良かったですね。起業・雇用にも結びついてきますものね。では、この方、ご感想をどうぞ

女性1: 非常に素晴らしいと思います。私自身、札幌を自転車で走るのが夢だったので、それを実現してくれたと思っています。これからも期待しています。

橋本: もしかしてメンバーですか

女性1: メンバーではないですが、応援者です。

橋本: 会員ではあるのですね。実際に会員になろうと思ったらどうすれば良いのですか。

ezorock: 会員になるのは、「ポロクル」にポロクルカウンターというのがありまして。

女性1: すみません私カウンターで・・・

橋本: カウンターのお姉さんだったのですか。じゃあカウンターを紹介して下さい。

女性1: ポロクルカウンターですが、もう少し(地下歩行空間を)南に行ってくださいと札幌ノースプラザビルがありまして、その中に「どさんこ商品研究所」というお店があります。その中にポロクルカウンターがあります。

橋本: 常設なのですね。

女性1: 常設です。いつでもお待ちしております。

橋本: では、そこにいって会員になって、あとは、簡単ですか。

女性1: あとは、インターネットとか携帯で、ポートで登録することが出来ます。

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション3

橋本 : 年齢制限はありますか

女性1: 16歳以上の方で、上は無制限です。

橋本 : もうひとりくらい関係者ではない方を。マイ箸いただきました？

女性2: 私、自慢ではないですけども、自転車にはまったく乗れないのです。でも娘とかが乗っていますので、自転車のことで地球が汚されなくて良いと思うので、どうぞ皆さん、寒くなるので体だけは大切にしてください。頑張ってください。応援します。



ezorock: ありがとうございます。

橋本 : すばらしい、温かい言葉をいただきました。良かったですね。それでは、スタッフの皆さんからもメッセージがあるそうですね。お願いします。

ezorock

ポロクルクルーの「ゆうじ」といいます。

私たちポロクルのクルーは約30人います。そのポロクルクルーそして、その上にいるディレクターが感じたことを、思ったことをこの場を借りて伝えさせていただければと思います。このほかのクルーの言葉は、エンドロールで流れていますので、そちらもあわせてご覧ください。私は普段から自分のプライベートでも自転車に乗って、「ポロクル」でさらに「ポロクル」に乗るといって生活をしています。その際思うのは、先程も紹介させていただきましたが車のドアが開いたり、クラクションを鳴らされ

たりということが多々あります。それをポロクルを通じて、私は変えていきたいと思います。自転車専用レーンがすごく欲しいです。私のコメントは以上です。ありがとうございました。



一番最初に自己紹介しました「ちゅーそん」です。

私は普段から「ポロクル」のユーザーとして「ポロクル」を使っています。先程紹介したとおり満車や空車という場面にも遭遇したことが何度かあります。来年からは、「ポロクル」のユーザーさんが満車や空車にあまりならないように、いろいろなところから借りるユーザーさんが増えるようにして欲しいと思っています。自分は、ポロクルの点検をする時、最後にライト点検をするのが一番好きなので、いつもやっています。しかし、つかないのがたまにあって、がっかりしていることもあります。以上です。

「しょこたん」です。

私は、結構長く「ポロクル」をやっているのですが、ポートでユーザーさんに会って挨拶をしたりとか、たまに世間話をするのがあって、そういう会話がとても楽しかったです。あとは、個人的には、夕方の道庁から郵政に続く道がすごく好きなので、いく機会があったらぜひ走行してみてください。以上です。

先程点検を実演した「シュワッチ」です。

私がポロクルに対して思っていることは、「ポロクル」は、もっと人と人をつなぐきっかけになれば良いなと思います。それは、自分の自転車を使っているのではなくて、この1台でみんなが自転車を使っているのだ、ということをもっと意識して、そうして誰かにつながっているということから、今回提案させていただいて

3Rコミュニティ・カフェ トークセッション3

と思って、毎日活動しています。そんな「ポロクル」のことを皆さんこれからも応援してください。ありがとうございました。

最後にもうひとつだけ。私たちクルーは、30人います。そのほとんどのクルーが思っていることは札幌の街並みが良くなって欲しい。で、自転車乗るときに危険な思いをしなくて良くなる、マナー向上を。自転車に乗っている人も、歩いている人も、車運転する人も、皆が札幌の街にいて怖い思いをしなくて良い、ということ私の中では目標にして考えています。これからも「ポロクル」の応援、どうぞよろしくお願いします。以上で「ポロクル」によるエコなサイクルシェアリングの提案を終わらせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。

橋本：

ありがとうございます。それでは、まだエンドロールは続いていますのでこのままで私も感想を述べさせていただきます。

皆さんが、メッセージを述べる姿を見ていましたら、よく仲間の皆さんで、何だろうこれほど、意見を出し合っているのだろうなということが伝わってきました。そして、シェアリングというのが人と人が結びつくことだ、ということもよくわかりました。また、3Rなど、地球環境を考えるとということも、これは人と人がきれいに結びつくことですね。自分のことだけ考えるのではなく、身近な人のことまで考えようということ、同じ気持ちでやっているのだなと思いました。そして、リーダーさんがおっしゃっているように、私も自転車の道が欲しいです。私は、ママチャリなのですが本当に欲しいです。早く札幌に自転車専用道路が、道路の端っこでも良いですから除雪の雪があるところでもいいですから、作っていただきたいですね。そしたら、札幌はもっともっと素敵な街になりますよね。「ポロクル」の皆さんで、その運動もなさってください。

実は私の会社の近くにもポートがあって、私はよく皆さんの活動する姿を見ていたのです。真剣にやっていますよね。あの人達、生活どうしているのかな、とよく思っていたものですから、余計なことを聞いてしまいまし

た。これからも会場の皆さん、大多数の人が応援すると思いますのでがんばってください。今一度大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。



閉会挨拶

今ご紹介をいただきました環境省北海道地方環境事務所統括環境保全企画官の伊藤と申します。本日は、お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。

今回の大会では、道民、事業者、行政が参加し、3Rのうち「リサイクル」のみならず、「リデュース」、「リユース」についての取り組みを広げると共に、特に今年度は、「もったいないがライフスタイルの原点」ということで食の大切さを織り交ぜて、一緒に考えてもらうテーマで開催いたしました。今日の講演では、女流講談師の神田紫さんの環境講談をはじめとして、3Rの活動を積極的に取り組んでおられる道内の団体のトークセッション・講座では、それぞれの講師の方々からライフスタイルを考えてもらえる大変参考になるお話をお聞きすることができます。本日の大会を盛り上げていただきました講師、関係者の皆様、長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。



環境省北海道地方環境事務所
統括環境保全企画官
伊藤 孝男

私ども北海道地方環境事務所としましても、「リサイクル」のみならず「リデュース」、「リユース」についての取り組み、各種普及啓発事業のさらなる展開を行い、循環型社会形成の推進を図っていきたいと思っています。会場の皆さん、環境に負荷をかけないようリデュース、リユースの具体的な取り組みとして従来から進めてまいりましたマイバック、マイボトル・マイカップに加えて、だれもが実践できる毎日の生活を見直すことができる「もったいない」を実践し、ゴミを出さない、捨てる前にもう一度考える、エコなライフスタイルを広めようではありませんか。本日はどうもありがとうございました。

平成23年 12月

環境省 北海道地方環境事務所 環境対策課

〒060-0808
札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎
TEL 011-299-1952
FAX 011-736-1234

委託機関 ㈱セレスポ 札幌支店

〒003-0809
札幌市白石区菊水9条西3丁目5-13
TEL 011-821-1810
FAX 011-821-1811

本事業は、環境省北海道地方環境事務所の委託により実施したものです。[禁無断転載]

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「Aランク」のみを用いて作製しています。

